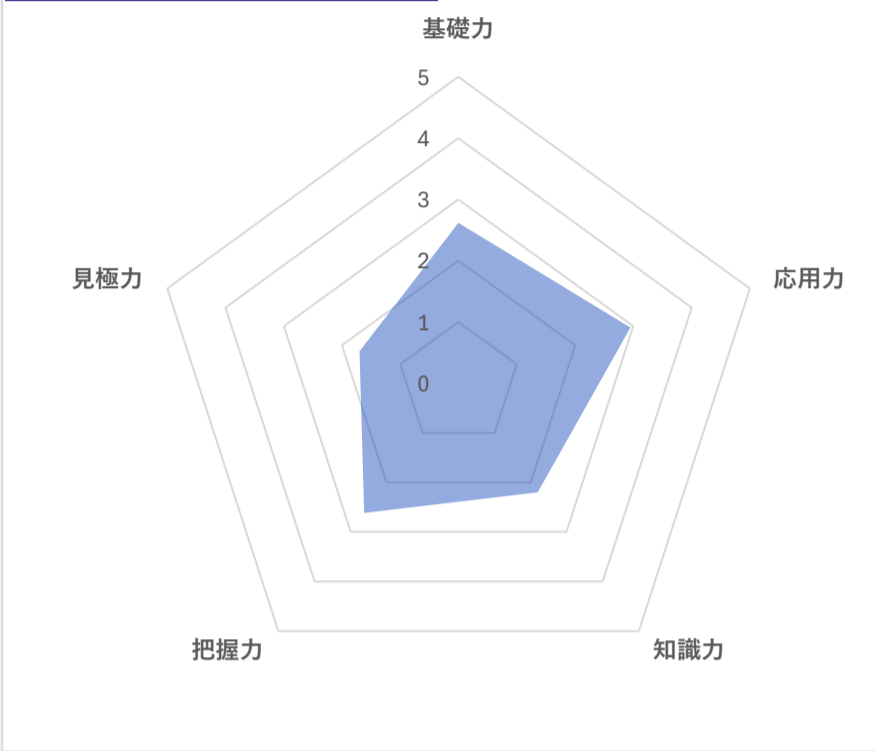


総合分析

試験区分	一般
------	----

制限時間	60分 (理科 2科120分)	大問数	全 3 問
------	-----------------	-----	-------

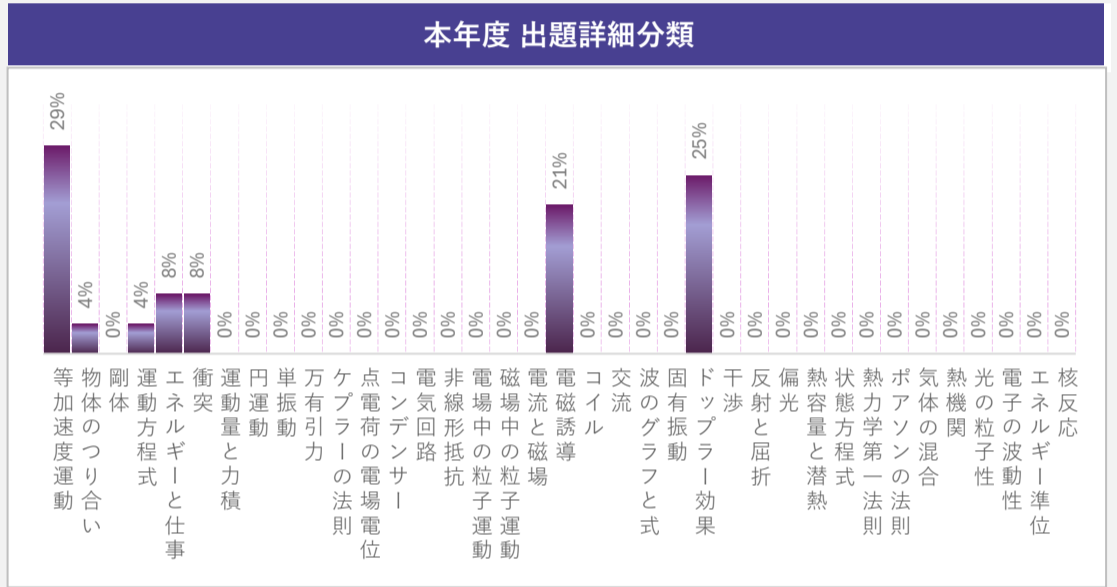
合格に要する能力 (5段階)



出題分野	
力学	54%
電磁気学	21%
波動	25%
熱力学	0%
原子物理	0%

本年度出題テーマ一覧	
第 1 問	直線上ドップラー効果
第 2 問	導体棒の電磁誘導
第 3 問	斜面上の放物運動と衝突

本年度 解答形式	
選択肢	58%
答えのみ記述	42%



特殊問題の有無	近似計算なし	グラフなし
正誤問題なし	理由記述なし	数値計算なし

合格に要する能力 (5段階)		
基礎力	2.4	原理についての理解
応用力	2.8	演習経験による慣れ
知識力	2.0	用語を正確に覚えているか
把握力	2.4	臨機応変に状況を把握する力
見極力	1.5	解きやすい問題を選択する力

特記事項	特になし
------	------

総合評価			
難度	2.3	最難を 5 とする問題自体の難度	やや易しい
分量	35分	完答に要する時間 (制限時間は60分)	少ない
一次合格に必要な正答率 (予想)			66%
標準			

**入試の特徴と対策**

- ▶ 設問ごとにテーマが一貫しており、目標に向かう流れがある。速やかなテーマの把握が鍵となる。
- ▶ 入試問題としてありふれた題材が多い。単純に演習量で十分に対策できる。
- ▶ 概ね法則の運用に関する応用的な出題である。物理計算への慣れが必要となる。
- ▶ 解法が誘導的に与えられる傾向がある。基礎に重点を置いた学習が要となる。

**入試から見る 大学が求める学生像**

問題が易しいため、かなりの正答率を要する。典型的な物理の問題演習をしっかりと積み、計算ミスをするのがないように注意力を磨くこと。応用的なことよりも、まず先に基本的なことを正確に身に着けるような堅実な学生を求めていると思われる。